

2025年7月25日実施ベンチマーク研修レポート

「今回のベンチマークで学んだこと、それをどのように自社経営に活かしていくか」

このたび、損害保険代理業協会主催の代理店ベンチマーク研修に参加し、三重県にある損保ジャパン専属代理店「株式会社ミライト」様を訪問いたしました。

当日は石川社長、小田専務、社員の安達様から、実際の経営体制や組織づくりについてのお話を伺うことができ、非常に有意義な学びの機会となりました。

特に印象に残った点は、以下の4つです。

① 産業カウンセラーの導入による組織の健全化

社内の意見や不満をすべて社長が受け止めていた従来の体制に限界を感じ、外部の産業カウンセラーを導入されていた。

第三者が社員の声を受け止めることで、経営者の精神的負担を軽減しつつ、社員も安心して話せる環境が整備され、信頼関係の構築と社内コミュニケーションの円滑化に繋がっていました。

② PDCA サイクルの高速化と社員の主体性

評価制度や仕組みを一方向的に導入するのではなく、社内会議の中で従業員と意見を交わしながら制度を作り上げることで、定着と改善がスムーズになっている。

また、毎年社長自らが会社の理念や方針を丁寧に説明することで、社員が自ら考え行動できる風土が形成されている点は、自社にとっても非常に参考になりました。

③ BCP（事業継続計画）の策定と実践

実際に災害を経験したことを踏まえ、実効性のあるBCPを整備している。災害時に有効活用され、他社へのコンサルティングにも発展しているとのことでした。

リスクを想定した備えの重要性と、日頃から現実的に使える体制を作る姿勢は、今後ますます必要になると感じました。

④ ヒヤリハット報告を促進する仕組み

単に「報告しなさい」という方針ではなく、いかに社員が報告しやすくなるかを考え、仕組みと雰囲気の両面から改善を加えている。

その結果、質・量ともに高いレベルでの報告が集まり、リスクの芽を早期に潰す文化が定着していました。

これは、コンプライアンス強化にも直結する好事例です。

■今後の自社への活用

今回の研修を通じて最も感じたことは、理念や想いを従業員にしっかりと伝えることの大切さです。

方向性を共有することで、従業員の「理解」と「納得」が生まれ、自然と主体的な行動へつながるという好循環を実現されていました。

自社においても、まずは経営方針や価値観を再確認し、従業員と対話の場を設けていきたいと考えています。

制度づくりに関しても、上から与えるのではなく、一緒に作り上げる姿勢を大切にし、納得感と参加意識を高めたいと思います。

また、ヒヤリハット報告やコンプライアンス意識の徹底も、形だけになっていないかを見直し、「報告しやすい環境」「相談できる空気」を整えていくことが必要だと痛感しました。

今後さらに厳しさが増す保険業界において、変化を恐れず、柔軟に受け入れ、むしろ前向きに活用していく姿勢が求められます。

今回の学びをしっかりと自社経営に活かし、より良い組織づくり・サービス提供に繋げてまいります。

以 上